

水と災害／東京・大阪・中京圏

Q.不安を感じる水の災害は？（18択＋その他＋特に不安を感じたことはない）

◇「ゲリラ豪雨」が全体のトップに

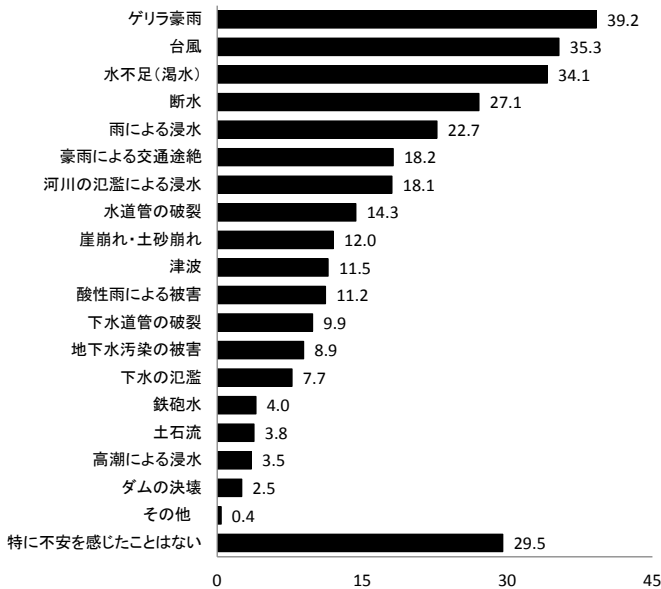
◇「ゲリラ豪雨」は、発生回数が少ない大阪圏で“最も不安を感じる水の災害”

今回新たな選択肢として「ゲリラ豪雨」を追加し、「不安を感じる水の災害」を聞いたところ、4割近く(39.2%)の回答で「ゲリラ豪雨」がトップとなり、2位「台風」(35.3%)、3位「水不足」(34.1%)と続きました。

次に、「特に不安を感じたことはない」の回答者を除いた「最も不安を感じる水の災害」を聞いたところ、こちらでもトップ3は、1位は「ゲリラ豪雨」(19.3%)、2位「台風」(17.2%)、3位「水不足」(17.1%)でした。ただ、局住地別でみると、「ゲリラ豪雨」がトップだったのは大阪圏(22.9%)のみで、東京圏の1位は「水不足」(19.4%)、「ゲリラ豪雨」は16.2%で3位)、中京圏の1位は「台風」(19.0%)、「ゲリラ豪雨」は18.8%で2位)という結果でした。2013年7月23日～9月30日の大阪府におけるゲリラ豪雨発生回数は38回で、東京都(116回)の約3分の1だった*ことを踏まえると、大阪圏では「ゲリラ豪雨」未経験者による“未知への恐怖感”が数値を押し上げた可能性も考えられます。

*出典：ウェザーニューズ社「今夏の“ゲリラ雷雨”発生回数まとめ(2013年10月発表)」より

不安を感じる水の災害(複数回答/単位:%)
N=1,500(全体)



最も不安を感じる水の災害トップ5(単数回答/単位:%)

	全体(N=1057)	東京圏(N=346)	中京圏(N=357)	大阪圏(N=354)
1位	ゲリラ豪雨 19.3	水不足 19.4	台風 19.0	ゲリラ豪雨 22.9
2位	台風 17.2	台風 17.1	ゲリラ豪雨 18.8	水不足 16.7
3位	水不足 17.1	ゲリラ豪雨 16.2	水不足 15.4	台風 15.5
4位	雨による浸水 9.6	断水 10.4	雨による浸水 10.9	雨による浸水 8.5
5位	断水 9.6	雨による浸水 9.5	断水 9.8	断水 8.5

※全体および大阪圏は、「雨による浸水」「断水」が同率4位

【ハザードマップの認知と活用実態】

ミツカン水の文化センターでは、本調査において「水と災害」に対する意識・実態の把握を目的に、これまで「不安を感じる水の災害」や「災害時に対する水の備え」に関する調査を行ってききましたが、今回より、「ハザードマップ」に着目した設問を新たに追加し、その認知や活用状況を探りました。

Q.ハザードマップの認知は？（3択）

Q.居住地域のハザードマップの有無は？（3択）

Q.ハザードマップの活用状況は？（3択）

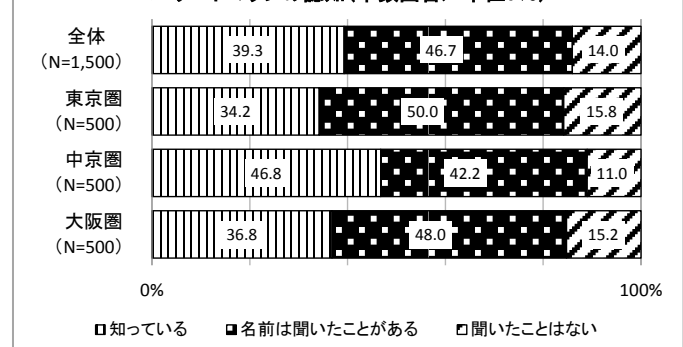
◇4割に満たない認知率

◇4割超が、自分の地域にマップがあるか「わからない」

◇7割超が「活用していない」

まず、「ハザードマップの認知」について聞いたところ、最も多かったのは「名前は聞いたことがある」(46.7%)で、内容も含め「知っている」人は39.3%にとどまりました。なお、居住地別で最も認知率が高かったのは、中京圏(46.8%)でした(東京圏34.2%、大阪圏36.8%)。

ハザードマップの認知(単数回答/単位:%)

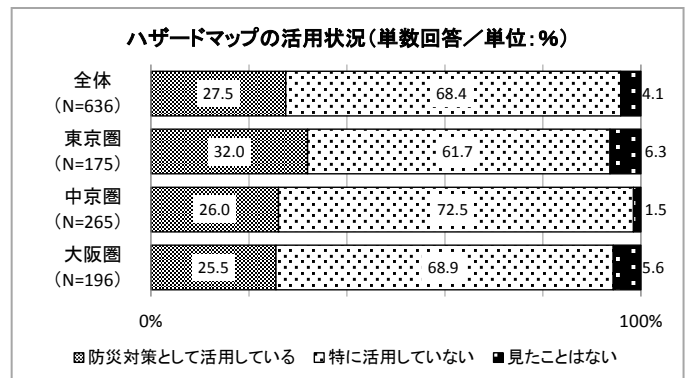
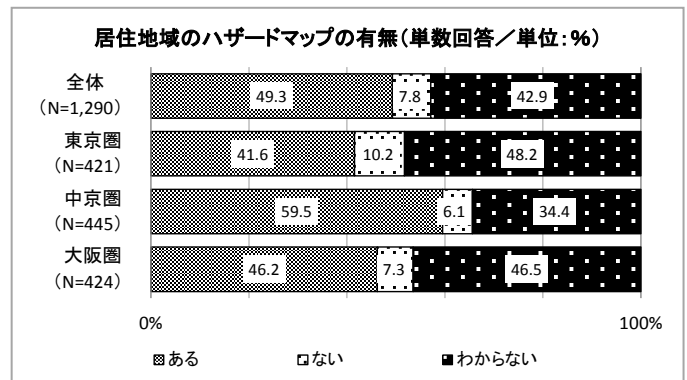


次に、「ハザードマップを聞いたことがない」人を除いて、自分の居住地域におけるハザードマップの有無を尋ねると、約半数(49.3%)が「ある」と回答しましたが、その一方で、4割超(42.9%)が、自分が住んでいる地域なのにもかかわらず、あるかどうか「わからない」人でした。

それでは、ハザードマップは実際にどれくらい活用されているのでしょうか？

前問で居住地域にハザードマップが「ある」と回答した人に、その活用状況を聞いたところ、「防災対策として活用している」人は27.5%にとどまり、7割超(72.5%)が「活用していない」(「特に活用していない」と「見たことはない」の合計)という実態が浮き彫りになりました。ちなみに、居住地別の活用率をみると、東京圏が他のエリアに比べて若干高い数値を示しました(東京圏32.0%、大阪圏25.5%、中京圏26.0%)。

以上の結果を踏まえると、ハザードマップに対する関心度は、決して充分とは言えないようです。



Q.災害時に対する水の備えは？ (6択+その他+何もしていない)

◇“備えなし”の増加傾向が、より顕著に

東京圏では“ミネラルウォーター買い置き”が激減

「災害時に対する普段の水の備え」は、「何もしていない」が昨年から4.5ポイント増の43.1%、「ミネラルウォーターを買い置きしておく」が4.5ポイント減の45.2%となり、昨年垣間見えた東日本大震災後の経年による危機意識の薄れとも読み取れる傾向が、より顕著に現れました。

中でも東京圏は、昨年3割程度だった「何もしていない」人の割合が4割超(41.2%)に跳ね上がり、「ミネラルウォーターの買い置き」は47.8%(昨年比11.4ポイント減)と激減しました。

